

定例行事

● 写経と法話会 毎月9日開催

写経は『仏説阿弥陀経』を少しずつ進めています。初回テキストをご購入下さい。(864円税込)
法話会では『正信偈』を少しずつ解説しあじわっていきます。

11月9日(日) 14時～

12月9日(火) 報恩講のため予定が変更になります。(詳細下記)

妙蓮寺報恩講(親鸞聖人ご命日法要)

1. 日時 平成30年12月9日(日曜)

13時30分～勤行『正信偈・和讃』

14時10分頃～ご法話 30分2席

講師 広島県 最禪寺 米田順照師

15時30分頃～お齋^{とき}

※ 報恩講は今年最後の特別な行事でもありますので、皆様とご一緒にお齋(食事)と少々お酒もご用意させていただきます。

2. 場所 妙蓮寺本堂(駐車場有)

3. お齋を希望される方は、お手数ですがご連絡願います。

連絡先 03-6231-4733 090-6340-9040

講師紹介

米田順照(よねだじゅんしょう)師 広島県^{はつかいち}廿日市市 最禪寺住職

真宗学寮講師 本願寺布教使

今回のご講師は、初めてお越しいただく先生です。大阪の行信教校という教学専門校で学ばれ、現在は広島県真宗学寮の講師もされております。広島弁の独特な雰囲気、楽しくわかりやすくお話しいただけると幸いです。

この時期になりますと、各寺院で報恩講(親鸞聖人ご命日)法要が始まります。そして年の瀬も感じる時期であります。「一年早いですねえ」という声が聞こえてきそうです。

さて、僧侶として動いておりますと、どうしても人の死ということをお大切にしなければなりません。最初はそのことに非常に抵抗がありました。最近すこしは慣れもあると思いますが不思議なもので人間にとって、死とは不安や恐怖心をもたらすものではありません。一方ですごく大切なことであるということが実感できるようになってきました。それは浄土真宗のみ教えが私に大きな影響を与えてくれているともいえましょう。

先日、本屋に立ち寄り何気に目につく表紙を見ておりましたら『神は脳がつくった』という題名が目飛び込んできました。一応私も宗教家の端くれですので何か気になり、手に取ってみますと、ただ持論が展開している本ではなく世界的に有名な精神科医でもあり脳科学者の E. フラー・トリ―という方が筆者であるこ

とが分かり購入してみました。

まだ読んでいる途中ですが、とくに関心を持ったところは、人類の進化の過程で宗教が誕生しそこには「死」ということの強い意識が深くかかわっていることをいろんな文献を参考に説明していたところでした。

人間が他の動物と明確に違うところは、自分もいずれ死ぬことを明確に理解しているということだそうです。確かに犬は飼い主が亡くなった時悲しげな表情を見せたり、ゾウは死んだ仲間の体に鼻を押し付けたり砂をかけたりするともいいますがどうも自分がいつれ死ぬということを理解している様子は見当たらないそうです。そのことは専門家の間では「死についての理解は、ヒトに特徴的な性質と動物の存在を隔てている違いとして、道具作り、脳、言語よりはるかに決定的な断絶」だといわれているそうです。

では、なぜヒトは自分がいずれ死ぬことを理解できたのか?それは、人類の進化の過程で、過去の自分に起きた経験を未来の自分に置き換える「自伝的記憶」

というものが身に付いたからだということでした。そしてさらに進化が進むと、いずれ死ぬ自分ということから「その自分はいったい何者なのだ?」といったそれまでにはなかった考えが芽生えていったのでは.....その後本は、宗教の出現という流れになってゆきます。およそ4万年前だそうです。

人類がどのように進化してきたのかという研究から人間と宗教の関係も大変具体的かつ科学的に語られるようになってきました。しかしいくら宗教を外部から説明することは深まっても、宗教の本当の意味は内部に入ってみないとわかりません。親鸞聖人は「自力をすて本願に帰す」といういいかたをされましたが、それが浄土真宗の中に入ることでありましょう。

ここでいう自力を捨てるとは、この命の行き先はすべて阿弥陀仏にまかすということになります。なぜまかせられるのか?それが阿弥陀仏の願い「本願」であるからおまかせします。そこに浄土真宗という宗教があり救いがあります。お念仏は救いそのものです。

南無阿弥陀仏